

「施策」総括票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり
施策	①良好な景観創出のための仕組みづくり	
対応する 主な課題	<p>○各地域が有する自然、歴史、風土等を生かした沖縄らしい良好な景観の形成に向けては、市町村や地域住民が方向性を共有し、主体的に参画できる仕組みの構築が不可欠である。</p> <p>○風景づくり、景観形成を推進するにあたって、良質な公共空間の創出により地域の景観形成を先導するとともに、良質な景観形成に関する専門的な知識を有する人材育成や技術開発を行う必要がある。</p>	
関係部等	農林水産部、土木建築部	

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
○市町村の景観行政団体への移行				
1	沖縄らしい風景づくり推進事業(景観行政団体)	19,371	順調	○市町村の景観行政団体への移行促進及び景観計画策定に向けての助言等を行った。(1)
○市町村の景観計画等策定支援				
2	沖縄らしい風景づくり推進事業(景観計画)	(1に含む)	順調	○市町村の景観計画・景観向上行動計画の策定及び景観地区の指定に係る助言等を行った。(2)
○景観評価システムの構築				
3	沖縄らしい風景づくり推進事業(景観評価システム)	87,433	順調	○景観アセスメントシステム案の策定及び道路・河川・港湾事業の景観チェックシート案を平成25年3月に策定した。(3)
○風景づくりリーダー育成とモノづくりの促進				
4	沖縄らしい風景づくり推進事業(リーダー育成)	(3に含む)	順調	○風景づくりに係る人材育成計画の策定及び景観向上に係る建築技術等研究開発計画を平成25年3月に策定した。(4)

様式2(施策)

○景観資源を活かした農地・農村の整備						
5	村づくり交付金		1,183,971	順調		○北部管内7地区、南部管内4地区、宮古管内5地区において、農道、農業用排水路、集落道路、地域資源利活用施設の整備を行った。(5)
6	団体営中山間地域総合整備事業		597,164	順調		○南部管内1地区、八重山管内3地区において生態系保全施設整備、農道整備等を行った。(6)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	市町村景観行政団体数		21団体 (23年度)	25団体 (24年度)	30団体	4団体	—
状況説明	伊是名村、宜野湾市、糸満市および八重瀬町の4市町村が新たに景観行政団体となったことで、平成24年度末の市町村景観行政団体数は25団体と前年度と比較して4団体の増加となった。計画通り景観行政団体数は増加しているため、H28目標値の達成は可能と見込まれる。						
2	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	景観地区数		3地区 (23年度)	3地区 (24年度)	10地区	0地区	—
状況説明	平成24年度は新たに景観地区に指定された地域はなかったが、現在、景観地区の指定に向け、11市町村21地区が取り組んでおり、順調に取組が進捗すれば、H28目標値の10地区は達成できる見込みである。						
3	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	景観アセスメント数		0件 (23年度)	0件 (24年度)	10件	0件	—
状況説明	平成24年度は景観アセスメントシステム案の策定及び道路・河川・港湾事業の景観チェックシート案を策定した。今後は景観チェックシート案を用いて景観アセスメントシステムを試行し、また、チェックシートを作成する際の手順書等を策定していく。今後、当該経費にかかる予算が計上されれば、目標値の達成が見込まれる。						

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
景観計画策定市町村数	6市町村 (22年度)	9市町村 (23年度)	10市町村 (24年度)	↗	—

Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

○市町村の景観行政団体への移行

・目標達成には、市町村の景観に対する意識向上に向けて、市町村と密に情報交換ができる連携体制を整える必要がある。

○市町村の景観計画等策定支援

・景観地区の指定に当たっては、地域住民の合意形成が必要なため、合意形成を行う市町村への的確な助言・支援を行えるよう、市町村と密に連携を取りながら実施する必要がある。

○景観評価システムの構築

・平成25年度予算要求時期では平成25年度の具体的な事業内容が決まっていなかったため、平成25年度当初予算では当該取組に係る経費が計上されなかった。計画通り取組を推進するために、策定した計画を基に、平成25年度補正予算の計上を図る必要がある。

○風景づくりリーダー育成とモノづくりの促進

・平成25年度予算要求時期では平成25年度の具体的な事業内容が決まっていなかったため、平成25年度当初予算では当該取組に係る経費が計上されなかった。計画どおり取組を推進するために、策定した計画を基に、平成25年度補正予算の計上を図る必要がある。

○景観資源を活かした農地・農村の整備

・村づくり交付金及び団体営中山間地域総合整備事業の活用については、事業主体となる市町村が事業計画を策定することが前提であり、そのためには、市町村の担当職員に対して事業の有用性について周知徹底することにより事業導入を促すとともに、実施に当たっても、県及び市町村の連携を強化することが必要である。

Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

○市町村の景観計画等策定支援

・近年、景観の向上に対する気運の高まりから景観行政団体数が増加しており、併せて景観計画策定市町村も順調に増加しているが、更なる向上に向け、市町村との連携体制の強化及び市町村職員の景観に対する知識習得を図ることが必要である。

○景観資源を活かした農地・農村の整備

・都市部に比べて生活環境の基盤整備が遅れている農村地域の不利性克服に資するため、本事業の計画的な促進が必要である。

V 施策の推進戦略案 (Action)

○市町村の景観行政団体への移行

・市町村を対象とした勉強会や研修などを年6回程度開催し、市町村との連携体制の強化及び市町村職員の景観に対する知識取得を図ることにより、市町村の景観行政団体への移行の支援に取り組む。

○市町村の景観計画等策定支援

・市町村を対象とした勉強会や研修などを年6回程度開催し、市町村との連携体制の強化及び市町村職員の景観に対する知識習得を図ることにより、市町村の景観計画策定支援に取り組む。

○景観評価システムの構築

・平成25年度9月補正予算に景観アセスメントシステムの試行等に係る経費を計上し、計画通り取組を推進する。

○風景づくりリーダー育成とモノづくりの促進

・平成25年度9月補正予算に風景づくりに係る人材育成の経費を計上し、計画通り取組を推進する。

○景観資源を活かした農地・農村の整備

・地元市町村や出先事務所など県の関係課と担当者会議等を行うことにより、市町村の担当職員に対して事業の有用性について周知徹底を図るとともに、新規着工地区に関しては、事業計画の策定に向けて市町村に対しヒアリング等を実施することにより、合意形成が十分に図られた事業計画を策定するよう指導し、新規着工地区を計画的に取り込み、事業促進を図る。